

# イリヤ&エミリア・カバコフ展 「私たちの場所はどこ？」

会期：2004年5月29日（土）－7月19日（月・祝）〔会期中無休〕 会場：森美術館 52階

## 3つの時代とスケールが同居する、奇想天外の展覧会！

物語性に満ちたユニークな絵画やインスタレーション作品で世界中から注目されるロシア人アーティスト、イリヤ&エミリア・カバコフ（ニューヨークを拠点に活動）の新作展を開催します。この展覧会はイタリア・ヴェネチアのケリーニ・スタンパリア財団とローマに2004年秋に開館する21世紀国立美術館との共同開催となるもので、大好評を博したヴェネチアでの発表（2003年6～9月）に続き、森美術館52階にて開催されるものです（森美術館会期終了後ローマへ巡回予定）。イリヤ&エミリア・カバコフの最新作となる本展では、3つの時代の展覧会が異なるスケールで同じ展示空間の中に設置され、観客はまるでガリバーか小人になったような不思議な驚きと面白さを体験します。巨大なスケールで展開される「過去」の展覧会、ミドルスケールの「現在」、床に隠された別世界の存在を垣間見させてくれるミニサイズの「未来」の展覧会を見るために、来館者は時に見上げ、時にかがみこむなど様々な姿勢をとりながら空間をめぐることとなります。

絵画や彫刻、テキストや雑多な日常の記憶の断片で、さりげなくも緻密なトータル・インスタレーションを成立させるのがカバコフの作風。観客は入口から出口までの空間をめぐるながら時間、オブジェ、光と色、音に巻き込まれ、それらの意味の「相対性」の中に身を置き「自身の場所はどこか」「自分は何者か」を考えるきっかけを掴みます。体験する中で自身の記憶や想像力を動員して自由に遊ぶ面白さを発見されるはず。文学的側面においても才能を発揮するカバコフがつむぎだす途方もない世界。そこには特定のイデオロギーや物語に回収されるのを避け続けてきたカバコフならではの眼差しがあります。旧ソ連の政治体制、また第二次世界大戦から現在という時代の波にさらされてきた中で培われた強靱なユーモアと批評精神が独自の作品世界と人柄に息づいているのです。

### イリヤ・カバコフ 略歴

1933年旧ソ連のドニエプロペトロフスク市生まれ。10才でレニングラード絵画彫刻建築大学付属の美術学校に入学、1951年にスリコフ記念モスクワ芸術大学グラフィック・アート科に入学。社会主義リアリズム体制の下、在学時より絵本の挿絵の仕事を始め、児童書の絵本挿絵作家として80年代末に西側に亡命するまで30年以上第一線で活躍する。並行して60年代～70年代に抽象や不条理な世界を描いた絵画、ソ連の日常生活で遭遇する場面をテキストとともに描いた絵本などを非公式に制作し、一部の関係者のみに公開する（代表的なものに絵とテキストで構成された「十の人物」という紙芝居形式の「アルバム」シリーズがある）。70年代半ばに成立した「モスクワ・コンセプチュアリズム」の一人で、体制反対を表明はしないものの、戦後ソ連で起こったさまざまな非公認芸術運動の周囲にいて、時に精神的中心の役割を果たす。87年に初めて西欧に招聘され、88年よりニューヨークを拠点にし、「共同キッチン」など旧ソ連の日常生活＝記憶のスペースを独自の皮肉とユーモア、フェティシズムを交えて再現した「トータル・インスタレーション」を展開、世界的に活躍する。ここ数年は旧ソ連の題材だけでなく、美術史や社会システムを再考する批評的なインスタレーションや、人間の想像的可能性を引き出すための大規模なプロジェクトをエミリア夫人との連名によって世界を飛び回り意欲的に行っている。日本での紹介も数多く、グループ展に「ソビエト現代美術～雪どけからベレストロイカまで～」展（世田谷美術館、1991）、「境界線の芸術—絵画と彫刻を超えて」展（セゾン現代美術館、1991）、また大規模な個展に「シャルル・ローゼンタールの人生と創造」（水戸芸術館、1999）が、常設作品に《彼らはのぞきこんでいる》（名古屋市白川公園、1999）、越後妻有アートトリエンナーレ（2000）がある。

開館時間：月・水・木 10:00-22:00 | 金～日・祝前日 10:00-24:00 | 火 10:00-17:00 [いずれも入館は閉館の30分前まで] 会期中無休  
入館料（円）：一般：1,500（1,800）[2,000]、学生：1,000（1,300）[1,500]、子供：500（800）[1,000] 本展チケットにMAMプロジェクト002（～7月19日）と展望台 東京シティビュー入館料含  
<平日セット料金：カバコフ展、MAMプロジェクト002 + MoMA 展（～8月1日）+展望台 東京シティビュー入館>  
[休日セット料金：上記同セット]  
\*学生（高校・大学生）子供（4歳以上～中学生）\*休日は土、日、祝日  
お問い合わせ：TEL: 03-5777-8600（ハローダイヤル）

主催：森美術館、ケリーニ・スタンパリア財団、21世紀国立美術館  
レセプション協力：メルシャン株式会社

<カタログ>  
本展のカタログを展覧会に際して発売いたします。  
サイズ：239mm×189mm（B5変形）頁数：152頁  
税込価格：2100円

また、5月28日（金）～6月27日（土）までSHUGOARTS シュウゴアーツにて、イリヤ・カバコフのアルバム劇場「クローゼットのプリマコフ」が開催されます。 SHUGOARTS シュウゴアーツ WWW.SHUGOARTS.COM

**PRESS RELEASE**  
プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER



## MAMプロジェクト002: ジュン・グエン = ハツシバ

2004年5月29日(土) - 7月19日(月・祝) [会期中無休] 会場: 森美術館 52階

### 海拔250メートルの森美術館で、深海の世界を体験!

MAMプロジェクト第2弾はジュン・グエン = ハツシバ(日本生まれ・在ベトナム)。1968年、日本人とベトナム人の両親のもと東京に生まれ、現在はホーチミン・シティを拠点とするアーティストです。二つの祖国を持ち、米国で美術教育を受けた彼にとって、1990年代以降のグローバル化、国際化という大きな課題が、自己のアイデンティティの模索という個人的な問題と重なることは、まったく自然な流れです。初期作品では、シクロ(三輪タクシー)や蚊帳、新聞、米、インスタントラーメンなどを使ったインスタレーションを展開。ベトナムの社会背景において無視できないアメリカとの関係、経済環境などを作品のコンセプトに強く打ち出したものでした。その後、2001年に発表したビデオ作《ナ・トラン、ベトナム メモリアル・プロジェクト——複雑さへ——勇氣ある者、好奇心をもつ者、そして臆病者のために》で、彼は国際的評価を得ます。インドシナ海で撮影されたこの映像作品では、海中でシクロをこぐドライバーの苦悩に浮かびあがる複雑な社会背景と、あまりにも美しい南洋の海の光の色が対照的で、見る者の心を素直に動かします。以降、《ハッピー・ニュー・イヤー: メモリアル・プロジェクト・ベトナムⅡ》(2002年)、《メモリアル・プロジェクト水俣》(2002年)と相次いで映像による新作を発表し、国際的な位置づけを急速に確立しつつあります。

MAMプロジェクト002では沖縄の海で撮影された新作《ホー!ホー!ホー! メリー・クリスマス: イーゼル・ポイントの戦闘ーメモリアル・プロジェクト沖縄》(2003年)を発表。アメリカ国旗とベトナム国旗にある星印をテーマにした作品ではハリウッド映画風のリミックス・サウンドが流れる海底で、ベトナム戦争に関係したハリウッド映画スターの肖像画が、ベトナム国旗の赤い布に黄色で描かれ、アメリカの“スター”(映画スターと星を意味する)からベトナム国旗の星への転換を示唆します。

特に今回の展示は海拔250メートルの森美術館で、深海で撮影された作品を観る、というスペクタクルな体験となります。

### PRESS RELEASE プレスリリース

<カタログ>

#### MAMプロジェクト001「サンティアゴ・クルル」

カタログ(日・英2カ国語版)を発売中。

サイズ: A5判 頁数: 60頁(内カラー32頁)

税込価格: 1300円

#### MAMプロジェクト002「ジュン・グエン = ハツシバ」

カタログ(日・英2カ国語版)を展覧会に際して発売いたします。

サイズ: A5判 頁数: 72頁(内カラー24頁)

税込価格: 1300円

#### アーティスト・トークシリーズ MY WORK V

※日英逐次通訳、要事前申込

日時: 5月29日(土) 11:00AM-12:30PM

会場: アカデミーヒルズ 六本木フォーラム ステップルーム1

出演者: ジュン・グエン = ハツシバ

定員: 50名

料金: 無料

お申し込み方法等、詳細は森美術館ウェブサイト:

WWW.MORI.ART.MUSEUM

森美術館が世界各国の才能豊かな若手アーティストを応援するプロジェクト・シリーズ。MAMプロジェクト001-003は森美術館シニア・キュレーター片岡真実が担当します。

次回MAMプロジェクト003はR.O.R [レボリューションズ・オン・リクエスト]を予定しています。

主催: 森美術館

開館時間: 月・水・木 10:00-22:00 | 金・祝前日 10:00-24:00

火 10:00-17:00 [いずれも入館は閉館の30分前まで] 会期中無休

入館料(円): 一般: 1,500(1,800)[2,000]、

学生: 1,000(1,300)[1,500]、子供: 500(800)[1,000]

本展チケットにカバコフ展(〜7月19日)と展望台 東京シティビュー入

館料金 <平日セット料金: MAMプロジェクト002、

カバコフ展(〜7月19日) + MoMA展(〜8月1日) + 展望台 東京

シティビュー入館> [休日セット料金: 上記同セット] \* 学生(高校・大学生)

子供(4歳以上~中学生) \* 休日は土、日、祝日

お問い合わせ: TEL: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

# 小沢剛：同時に答える YES と NO

会期：2004年8月24日（火）—12月5日（日）[会期中無休] 会場：森美術館 53階

## 牛乳箱サイズの小宇宙が世界をひとつに繋ぐ！ 1990年代以降の日本を代表する現代アーティスト、小沢剛の世界初個展

### ◎ユーモアに包まれた批判的精神 と「日本」への眼差し

小沢剛のアートの始まりは“牛乳箱”です。1960年代生まれのアーティストがアートシーンに登場しはじめた90年代前半、小沢は日本の貸し画廊の制度をユーモラスに批判した《なすび画廊》を展開。牛乳箱をギャラリー空間に転換し、さまざまなアーティストによる作品展示を牛乳箱空間で行い、ゲリラ的に街中の電信柱などに展示しました。アーティストにとって最も重要とされるオリジナリティを自ら放棄し、他者の意志が介入したプロセス全体を自らの芸術としたのです。1990年代以降の多文化時代、欧米中心で成立してきたアートシーンの脱中心化の機運と歩調をあわせるように、小沢剛はさまざまな国際展へ招待され、牛乳箱のアートも《新なすび画廊》として世界各地でプロジェクトを展開してきました。続いて発表した「相談芸術」のシリーズでは、《相談芸術大学》《相談芸術カフェ》、《相談芸術ホテル》などを展開。観客の意思によって変化していくというコンセプトは、アーティストの存在を希薄にしているようでいて、逆に小沢剛を1990年代以降の日本を代表する現代アーティストとして位置付けることとなりました。《なすび画廊》で小沢が見せるユーモアに包まれた批判的精神は、2001年以降に制作されている《ベジタブル・ウエポン》シリーズでも継承されています。世界各地の鍋料理に使われる食材で銃を形作り、戦闘のイメージとは距離を置いた現地の少女をモデルに写真を撮影。その後、その食材で実際に鍋料理を振舞うというもの。戦争の絶えない新世紀に、アートができる小

さなプロテストといえます。また、鍋を囲んだパーソナルな関係を基準とするこのプロジェクトは、世界各地で継続されることで、世界の人々をひとつに繋げるグローバルなスケールへと発展しています。

一方、小沢剛の作品には、「昭和期の日本」を感じさせるものも少なくありません。70年代の高度経済成長期に育った世代が経験した社会環境の変化や、そこで無抵抗に失ってきたものへのノスタルジーが随所に見られますが、それは「日本」というアイコンを商品化しようとする時代への迎合的な姿勢ではなく、民俗学的な視点も含めた日本人による「日本文化」の再検証です。このことは、グローバル時代におけるローカルな文化の再検証、国際的なアートシーンにおける日本現代美術の新しい文脈化の試みでもあります。

美術館レベルでは小沢剛の世界初個展となる「小沢剛展」は、牛乳箱に始まった小沢の小宇宙が、ひとつひとつのパーソナルな関係を繋げていくことでグローバルに発展してきたスケール感を、小沢の初期作品からの主要作品と最新作で構成するものです。

本展はまた、森美術館の目的のひとつである日本およびアジアのアーティスト活動の奨励を具体化するものでもあり、時代を担う中堅のアーティストを「個展」形式で網羅し紹介する展覧会シリーズの第一回目となります。

開館時間：月・水・木 10:00 - 22:00 | 金～日・祝前日 10:00 - 24:00  
火 10:00 - 17:00 (いずれも入館は閉館時間の30分前まで) 会期中無休  
入館料等、詳細は未定

主催：森美術館

PRESS RELEASE  
プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

COLORS: VIKTOR Ⓞ ROLF Ⓞ KCI

# COLORS ファッションと色彩： VIKTOR Ⓞ ROLF Ⓞ KCI

会期：2004年8月24日（火）～12月5日（日）[会期中無休] 会場：森美術館 53階ギャラリー 1・2・3

## ◎5つの色をテーマに繰り広げられる、色彩とファッションの鮮明なる変遷

「COLORS ファッションと色彩：VIKTOR Ⓞ ROLF Ⓞ KCI」は17世紀から現在までに色彩がファッションにおいて果たしてきた役割について、色が持つ歴史的な背景や社会的な意味合いを衣装展の中で解き明かしてゆくものです。本展に登場する黒、青、マルチカラー、赤と黄、白は、これまで流行色としてファッション史に登場し、時代をより鮮明にいろどってきました。これまであまり包括的にとりあげられることのなかった色彩とファッションの関係をとり上げる意欲的な展覧会でもあります。

## ◎アートとファッションの境界を揺るがすデザイナーユニット、ヴィクターⓄロルフの5つの「色」

ゲスト・キュレーターとしてこの試みを支えるのが、ファッション・デザイナー、ヴィクター Ⓞロルフ (VIKTOR Ⓞ ROLF) の2人組です。アートとファッションの境界を揺るがす作品を次々と世に送りだす彼らは、これまでにモデルの瞳以外は衣装も顔も全て黒づくめの、「ブラックホール」コレクション（2001年秋冬）や、青い衣装に身を包んだモデルとその映像を同時に映し、ビデオ編集で使用されるクロマキー処理を用いて、衣装がもつ青色が都市風景などを映すスクリーンと化す「ブルースクリーン」コレクション（2002年秋冬）など、色彩に特化した話題のコレクションを発表してきました。本展ではこれらのコレクション・ショーの映像を核に、2人が京都服飾文化研究財団（KCI）所蔵の約一万一千点のコレクションから選んだ17世紀から現代までの衣装やアクセサリー 90

点が展示されます。このほか、ヴィクターⓄロルフによる衣装をはじめ、オランダのフローニンガー美術館、セントラル美術館、またフランスのクリスチャン・ディオール・クチュールなどからも出展されます。

現代ファッションの最先端で活躍するデザイナーの展示セレクションは、衣装がもつ時代を超えた「色」をよみがえらせ、古来より人間を魅了し続けてきた色彩の持つ根源的な魅力、楽しさ、そして力強さをあらためてわれわれに認識させてくれるでしょう。

本展は、京都服飾文化研究財団と森美術館との共同開催で、京都国立近代美術館（会期：2004年4月29日～6月20日）に続き、森美術館で開催いたします。

### ヴィクターⓄロルフ 略歴

ヴィクター・ホルステイング（1969年イスラエル生）とロルフ・スノーレン（1969年オランダ生）の2人組。1993年にブランド設立。オランダに本拠地をおく彼らは、1998年よりパリにてオートクチュールを発表、2000年よりプレタ・ポルテを手がける。アートとファッションの境界を自由に行き来する彼らのデザインは知的でオリジナリティーにあふれている。2001年より色彩に特化したコレクションを開始。21世紀におけるファッションの可能性を提示しつづける彼らの活躍はめざましく、2003年にはパリ国立衣装テキスタイル美術館（ルーブル宮）において回顧展が行われた。また2004年にはヴィクターⓄロルフによる香水を発売する予定。

### 出品デザイナー

アズディン・アラリア、クリトバル・バレンシアガ、ガブリエル・シャネル、クリスチャン・ディオール、ドルチェ&ガッバーナ、マリアノ・フォルチュニ、ジョン・ガリアーノ（クリスチャン・ディオール）、ジャン＝ポール・ゴルチエ、川久保 玲（コム・デ・ギャルソン）、三宅一生、エミリオ・プッチ、ロベール・ピケ、イヴ・サンローラン、エルザ・スカパレリ、ヴィクターⓄロルフ、マドレーヌ・ヴィオネ、渡辺淳也、ヴィヴィアン・ウエストウッド、山本耀司（姓のアルファベット順）

開館時間：月・水・木 10:00 - 22:00 | 金～日・祝前日 10:00 - 24:00  
火 10:00 - 17:00（いずれも入館は閉館時間の30分前まで）会期中無休  
入館料等、詳細は未定

主催：森美術館、京都服飾文化研究財団

企画制作協力：京都国立近代美術館

後援：オランダ王国大使館

特別協力：株式会社ワコール

協力：株式会社七彩、吉忠マネキン株式会社

## PRESS RELEASE

### プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# 今後の展覧会ハイライト

(2004年～)

## 1. アーキラボ：建築、アート、都市の新たな実験

会期：2004年12月20日～2005年3月末 会場：森美術館53階

建築は、現代の情報および都市環境と密接に結びついた先鋭的な実験の場となっています。コンピュータ、そして新素材は、これまで実現しえなかった形態を次々と生み出し、新たな建築物が都市空間に次々とあらわれはじめています。この展覧会では、1950年代以降の建築において各時代で探求されてきたユートピアのヴィジョンおよび実験、それにつながる現代の最先端までを中心に紹介することで、建築、都市、そしてアートの未来を探るものです。

## 2. アートが紡ぐ物語（仮題）

会期：2005年4月24日～2005年7月 会場：森美術館

現代アートにおける物語性に着目し、ストーリーを感じさせる絵画、写真、ビデオなど多彩な作品を紹介します。現実と非現実の間をさまよう不思議なイメージの奥にひそむ様々なテーマ・家族、人種、ジェンダーなど・は、今を生きる私たちが対面している問題でもあります。アーティストが「語る」物語と今日的テーマとの関係を探ります。

## 3. 杉本博司展（仮題）

会期：2005年10月中旬～2006年1月 会場：森美術館

ハーシュホーン美術館&彫刻庭園との共同企画です。

## 4. AFRICA REMIX：現代アフリカ美術とその未来（仮題）

会期：2006年2月中旬～2006年5月中旬 会場：森美術館

過去10年間のアフリカ美術を、アート、映画、文学、音楽、建築、デザインを網羅して構成、展覧します。著名なアーティストから若手アーティストまで、アフリカ国内のみならず海外で活躍しているアフリカ人アーティストを紹介。本展覧会はデュッセルドルフ美術館、パリ国立近代美術館、ハイワード・ギャラリーを巡回した後、東京で開催されます。ゲスト・キュレーターにサイモン・ジャミを迎えます。

## 5. ビル・ヴィオラ回顧展（仮題）

会期：2006年6月～2006年9月 会場：森美術館

## 6. ホット & スパイシー：アジアのクリエイターの今を描く

会期：2006年10月～2007年1月 会場：森美術館

アジアのアート&カルチャーをリアルタイムに紹介。さまざまな地域から次々と湧き出る最もダイナミックでエネルギッシュな芸術・文化をアート、デザイン、ファッション、音楽、映画、ニューメディア、若者文化を網羅して紹介します。本展覧会には日本、韓国、中国、イスラエル、トルコ、そして他のアジア諸国の作品が展覧されます。

## 7. 路上の詩：フランス近代写真の軌跡

会期：2007年2月～2007年5月 会場：森美術館

写真史の上でも魅力的な時代である1920年代半ば～1960年代後半の作品を中心に、当時からメディアに影響を与えてきた人道主義のフランス人写真家たちの作品を検証します。この重要な時代を文化的、歴史的背景を考慮しつつ、300点以上の傑出した作品で構成します。ゲスト・キュレーターにピーター・ハミルトンを迎えます。

PRESS RELEASE

プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER